

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立城東中学校

1 自己評価書

教育目標	夢を力にたくましく生きる生徒の育成				
基本方針	コミュニティスクールを活性化させ地域の教育と連携し、保護者や地域の願いを踏まえながら、校内外の諸活動に主体的に取り組み、思いやりの心を持ちたくましく生きる生徒を育成する。また、分かる授業の実現による確かな学力、感動と充実感を味わう多様な集団活動の充実による豊かな心、たくましく生きるための体力の向上に取り組み、変化する社会を生き抜いていく力を身に付けさせる。				
本年度重点目標	1. 学びの充実 2. 豊かな心の醸成 3. たくましく生き抜く力の育成 4. 生徒指導の充実 5. 健康・安全教育の推進 6. 家庭・地域から信頼され、誇りとされる学校づくりの推進 7. 働き方改革の推進				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	B	B
			・具体的な対策の実施	B	
	② 授業改善	ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート	A	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	B	
			・教師アンケート	A	
	③ 家庭学習の充実	一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
			・教師アンケート	A	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	B
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	B	
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	A	
・児童生徒アンケート			A		
(成果と課題) ●授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に各教科で授業改善に取り組んでいるが、その成果を生徒や保護者が実感できるまでには至っていない。 ●ICTの活用については、毎週1回のeタイムや各教科の授業での積極的な活用が見られる。今後は、授業と連動させて家庭でも活用させる等の家庭学習での活用発展させていくことが課題である。 ●朝の読書活動にて読書を行っている生徒が少ない印象がある。学級文庫の貸出などを活用して、読書活動を呼び掛けを行っていききたい。 ○1年生は地域協力者の協力により、ふるさとの現状を自分の目で確かめ、新たな発見をしたり、より深くふるさとについて考えたりすることができた。また、情報を相手にわかりやすくまとめることにより、情報発信能力を育成することができた。 ○2年生は1人1研究を行い、自ら課題を設定し、調べ、まとめることで調べ学習の方法を身に付けることができた。その研究の中で、自分の住んでいる地域とそれ以外の地域を比べることで互いの良さに気付いた生徒が多く、改めて地域の良さを知ることができた。さらに来年度にどのように繋ぐことが有効か考えたい。 ○3年生は職場体験学習で地域の産業に触れ、宇和島について理解したり、自分や宇和島の将来について考えたりするきっかけとなった。仕事のやりがいや苦労を実感し、働く上で大切なことを学ぶことができた。					
(改善策等) ○授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点とした授業改善については、今後も教科間でノウハウを共有するための研修を充実させる。 ○引き続き、各教科の宿題として、すららドリル等の学習コンテンツを活用することによって、家庭学習の充実に努めたい。 ○図書委員会で読書習慣がない生徒に向けた学級文庫の選定、呼びかけなどを行い、生徒が読書をする習慣を付けられるような環境を整えていきたい。 ○外部講師や訪問先への連絡調整を生徒にやらせることで、交渉力や人間関係構築力を育てていきたい。来年度は補助金などを適切に利用するため、年度末にはその準備を行っておきたい。					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A	
			・保護者アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	A		
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	B	
	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	③ 関係機関との連携	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	A	B
・児童生徒アンケート				B		
自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A		
			・児童生徒アンケート	B		
<p>(成果と課題)</p> <p>○生徒は落ち着いた学校生活を送ることができている。不登校生徒については本校に設置されているSRの利用を通して、不登校への対応がされている。また、スクールカウンセラーや教育相談を活用することで個別の面談などを通じて学校での困りごとなど相談しやすい体制を整えることができている。</p> <p>○SCやSSWの周知については、学級などを通じて伝達したことが生徒や保護者への認知に繋がっている。</p> <p>○自己肯定感・自己有用感ともにB評価だが8割以上の生徒が自分のことを肯定的に受け入れることができている。様々な行事や人との関わりの中で、自己肯定感が育まれている。</p> <p>(改善策等)</p> <p>○不登校について初期段階での対応が大切である。初期段階での変化を見逃さず対応できる体制作りをしていきたい。</p> <p>○様々な機会を通して、承認や肯定の言葉をかけ、達成感や自信を持たせられるような関わりを続けていきたい。</p>						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	C	C
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
			・教師アンケート	A	A
	③ 他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	<p>(成果と課題)</p> <p>○繁忙期の12月2週目から5時間授業に短縮し、完全下校時間を早めたことにより、成績処理等に携わる時間を確保することができた。</p> <p>●学年・校務分掌・部活動指導等による業務量の差が大きく、特定の教職員に業務が集中し、一部の教員の月80時間を超える時間外勤務が解消されていない。</p> <p>○教職員間の声掛けや支え合いが日常化し、経験年数に関わらず安心して相談できる職場環境となっている。</p> <p>○ノ一部活動日を設定し、計画的な部活動運営を行うことができた。</p>				
<p>(改善策等)</p> <p>○月ごとの時間外勤務状況を管理職・学年主任等で共有し、80時間超が見込まれる教職員に対して早期に業務調整を行う体制を整える。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	C	B
			・教師アンケート	C	
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート	A	
			・地域アンケート	A	
	③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート	A	
<p>(成果と課題)</p> <p>○公民館行事や地域のボランティア活動に生徒が参加した様子をホームページで発信することで、地域学校共同活動の取組を保護者に理解してもらうことができた。</p> <p>○毎日のホームページ更新や学級通信の継続的な発信を通して、学校や学級の様子を適時・的確に伝えることができた。</p> <p>●2学期の学校運営協議会は夏季休業中の開催となり、学校評価に関する報告・意見交換が中心となったため、教師アンケート評価が低くなった。</p>					
<p>(改善策等)</p> <p>○教職員が学校運営協議会の意義を実感できるよう、熟議の内容や協議結果を校内で共有し、学校運営の改善につなげる取組を進める。また、ホームページ等で情報発信を引き続き行う。</p> <p>○スクールサポートスタッフとの連携を継続し、丁寧な来客・電話対応を通して、相談しやすい学校づくりに努める。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満